

みんなとともに笑顔いっぱい — 「101」 新たなるステージへ —



みんなとともに



毎朝、職員が「非接触型体温計」を使って、昇降口前で子どもの体温を測っている。37度以上の場合は外から保健室へと誘導し、養護教諭による再度の体温測定と体調確認を行う。最終的には、管理職が入校の可否を判断する。厳しい対応かもしれないが「校内にウイルスを入れない」という強い決意のもと、「学校の中」は“子どもが安心して過ごすことのできる場所”にしたいと考えている。



修学旅行に行ってきます - 会津若松フィールドワーク -

新年度に入ってから“巣ごもり状態”のとき、「修学旅行ができるかどうか」は全くの未知数でした。日々感染状況は変化していますが、「今なら」と判断し、9月4日（金）に「修学旅行」を実施します。

【「修学旅行」をこの時期に実施する理由】

- 本来設定していた時期が、この時期である。
- 現在、福島県は「レベル1」の感染状況である。（本市及び会津若松市も同様の状況である）
- 秋以降に引き伸ばしても、状況は不透明であり、さらにリスクが高まるおそれもある。

そして、多くの行事が中止になった6年生に、修学旅行は実施し“記憶に残る体験”をさせたい、という思いがあります。

“一か九か”ではなく、「新型コロナウイルス感染症」への感染防止に細心の注意を払いながら、「新しい生活様式」に則った旅行をしてきます。

【「新型コロナウイルス感染症」への感染防止策】

- バスを1台増やし、2台のバスで往復し、「密接」を避けます。また、“外気を取り入れる仕組み”を持つバスを利用することで、「密閉」を防ぎます。
- 「マスク（予備を含めて3枚準備）」の着用、及び「携帯用手指消毒アルコール（またはアルコール除菌シート）」の利用により、「密集」による感染リスクを押さえます。
- ※ 班活動時での緊急対応のために、班ごとに携帯電話を用意しています。

うまくいけば、「修学旅行速報」を、「本校ウェブページ」に現地からアップしたいと考えています。

【行程】

学校出発 → 鶴ヶ城天守閣 → フィールドワーク → 鶴ヶ城会館 → 若松出発 → 学校到着
 (8:00) (班別行動・自由昼食) (16:30)

【校長のつぶやき】 その41 「PTAのトリセツ」



県教育委員会の鈴木淳一教育長と近しく話をさせていただいたときに、「『PTAのトリセツ』という本を読んだことはあるかな」と聞かれた。正直に「ありません」と答えると、後日その本が手元に届いた。わざわざ購入してくださったのだ。ありがたく読ませていただくことにした。

ある中学校のPTAの話である。「懇談会での役員決めでのくじ引き」や「専門委員長決めでのじゃんけん」など「PTAあるある」満載の学校を、保護者と校長がともに奮闘して、“よりよいPTA活動のあり方”を模索した記録となっている。

その中に「運営委員会」の活動がある。毎月1回定期的に開催し、「役員なら誰でも参加できる会」となっている。校長は必ず参加し、保護者の声を学校経営に反映させていく。「筋書きのない意見交換の場」は好評でほとんどの役員が参加するようになったとのことである。このほかにも、「役員全員立候補制」「専門委員会の廃止」など興味深い内容が書かれている。

「まえがき」には、「ゴールを『入学式と同じくらいの親子の笑顔』に設定したら、こんなことができました！という、PTA改革の記録です。」とある。よかったら、ご一読を。